

教職員の望ましい働き方について

～学校運営協議会でのフリートーク結果の分析～

1. 目的 本校教職員の働き方について、委員の皆様からいただいた意見をもとに、今後の学校運営の方向性を整理する。

2. 主な意見（整理）

委員からは、次のような働き方が望ましいという意見が出された。

- 長期休業中にまとまった休みがとれる。
- 健康を害するまで働かなくてよい。
- 仕事を家庭に持ち帰らない。
- 得意分野を活かして働ける。
- 保護者対応で疲弊しない。
- 必要なときに気兼ねなく早く帰れる。

3. 意見の分析

① 時間的余裕の確保

日常の長時間勤務の改善、休暇取得の実効性確保

→ メリハリのある働き方が必要

② 健康を守る働き方

「子どものため」という過度な自己犠牲の見直し

→ 教職員の健康＝教育の質の基盤

③ 業務の学校内完結

持ち帰り仕事の解消 → 勤務時間内で終わる業務設計へ

④ 強みを活かす組織づくり

一律型から役割分担型へ → チームとしての学校運営

⑤ 心理的負担の軽減

保護者対応の個人依存の見直し → 組織的対応の強化

⑥ 働きやすい職場風土

「早く帰りにくい雰囲気」の解消 → 心理的安全性の確保

4. 見えてきた本質

これらの意見から見える本質は、善意に依存した働き方からの脱却や、「頑張り続けること」が前提になっている現状であり、個人の努力で成り立つ学校運営となっていることで、持続可能で組織的な学校運営への転換が必要であること。

教職員の働き方改革は、教職員を守るためだけでなく、子どもたちの学びの質を守るために不可欠であること。